

．地域住民意向

1．農村振興基本計画策定のための住民意向調査

(1) 調査の概要

本市の農業・農村振興の指針となる農村振興基本計画策定に当たって、市民の考える市の将来像や問題点などを把握するために、幅広い市民を対象にして調査を実施しました。

回収状況等を以下に示します。

表 1-3-1 調査の回収状況等

	配布数	有効回答数			備考
			うち農家	うち非農家	
全体調査	6,000	2,030 (33.9%)	904 (44.5%)	1,126 (55.5%)	
旧柳川市	3,000	990 (33.0%)	389 (39.3%)	601 (60.7%)	平成 16 年度実施
旧大和町	1,500	528 (35.2%)	275 (52.1%)	253 (47.9%)	平成 17 年度実施
旧三橋町	1,500	512 (34.1%)	240 (46.9%)	272 (53.1%)	平成 17 年度実施

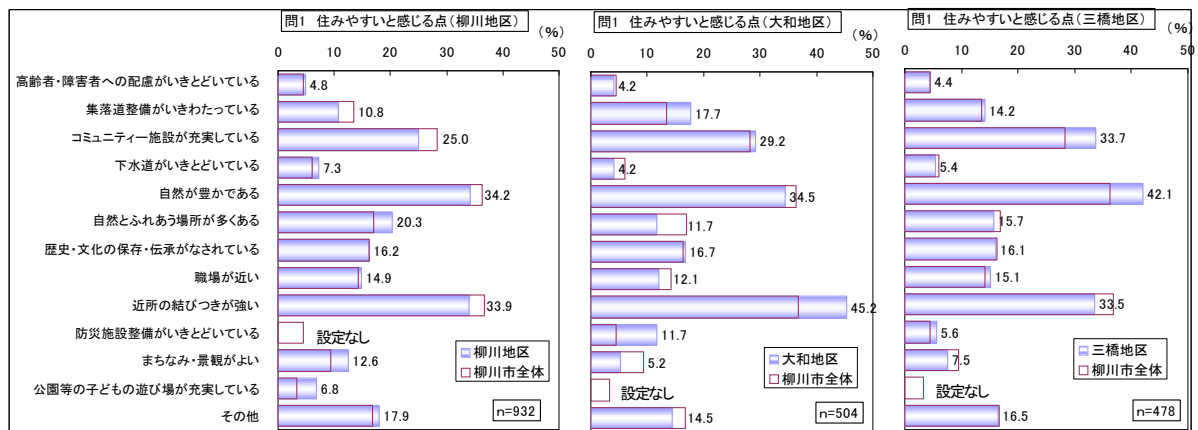
※有効回答数の下段（ ）内の割合は有効回収率、内訳の下段（ ）内の割合は構成比。

(2) 調査結果（設問ごと）の概要

○住まい周辺の生活環境について

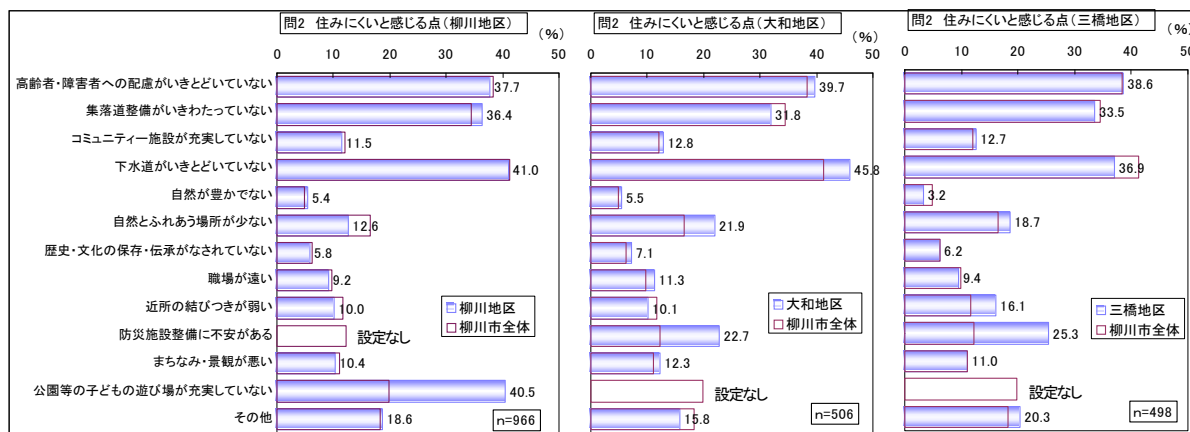
問 1 あなたがお住まいの行政区について、特に住みやすいと感じる点は何ですか？（複数回答）

柳川地区、三橋地区では「自然が豊かである」（柳川地区 34.2%、三橋地区 42.1%）、大和地区では「近所の結びつきが強い」（45.2%）という回答が最も多くなっています。



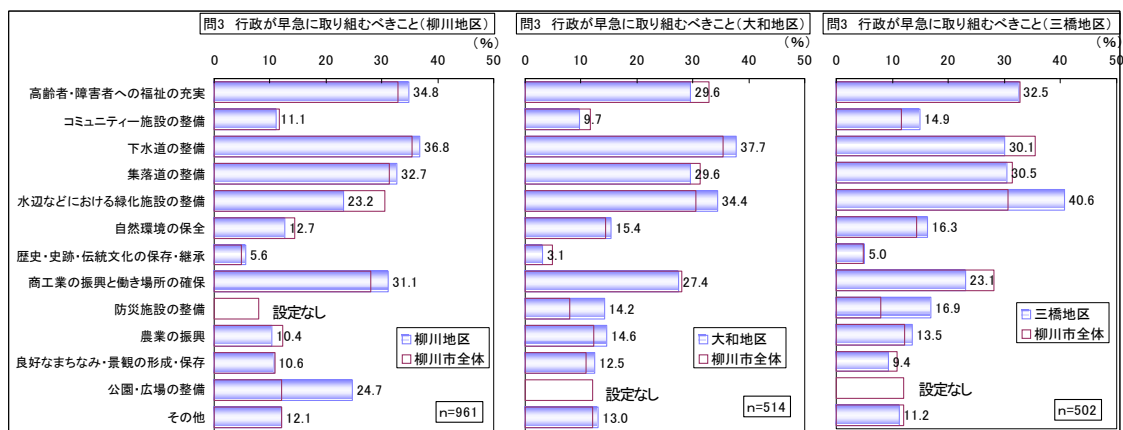
問2 あなたがお住まいの行政区について、特に住みにくいと感じていることは何ですか？（複数回答）

柳川地区、大和地区では「下水道整備がいきとどいていない」（柳川地区 41.0%、大和地区 45.3%）、三橋地区では「高齢者・障害者への配慮がいきとどいていない」（38.6%）という回答が最も多くなっています。



問3 あなたがお住まいの行政区について、今後、行政が早急に取り組む必要があると感じることは何ですか？（複数回答）

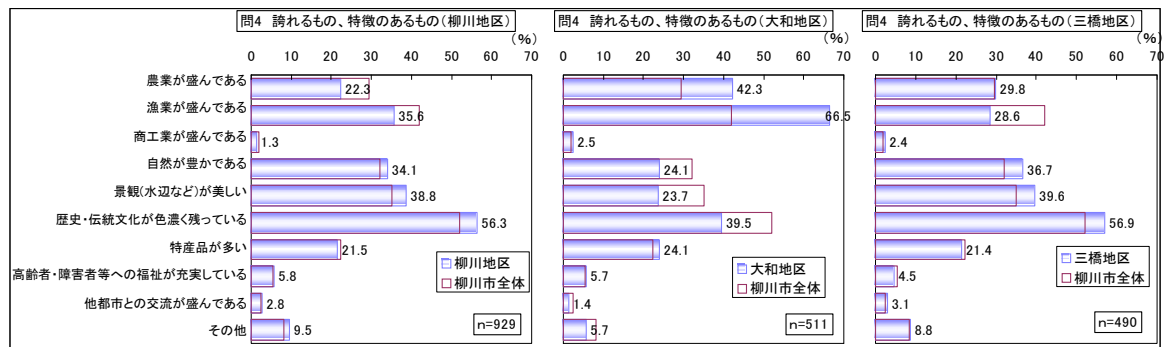
柳川地区、大和地区では「下水道の整備」（柳川地区 36.8%、大和地区 37.7%）、三橋地区では「水辺などにおける緑化施設の整備」（40.6%）という回答が最も多くなっています。



○柳川市の将来像について

問4 柳川市で誇れるもの、特徴のあるものは何だと思いますか？（複数回答）

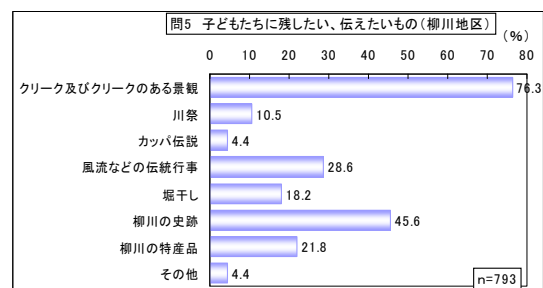
柳川地区、三橋地区では「歴史・伝統文化が色濃く残っている」（柳川地区 38.8%、三橋地区 56.9%）、大和地区では「漁業が盛んである」（66.5%）という回答が最も多くなっています。



問5 柳川市に残る自然や歴史・伝統文化に関するもので、特に子供たちに残したい、伝えたいと考えるものは何ですか？（複数回答）

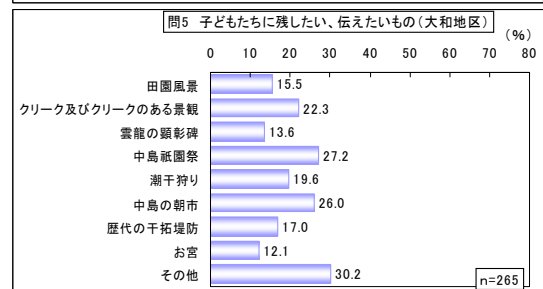
(柳川地区)

「クリーク及びクリークのある景観」が 76.3%と最も多く、次いで「柳川の史跡」(45.6%)、「風流などの伝統行事」(28.6%)となっています。



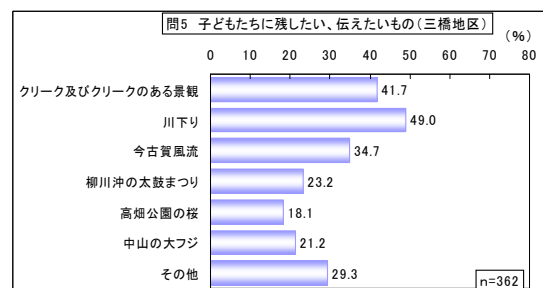
(大和地区)

「中島祇園祭」が 27.2%と最も多く、次いで「中島の朝市」(26.0%)、「クリーク及びクリークのある景観」(22.3%)となっています。



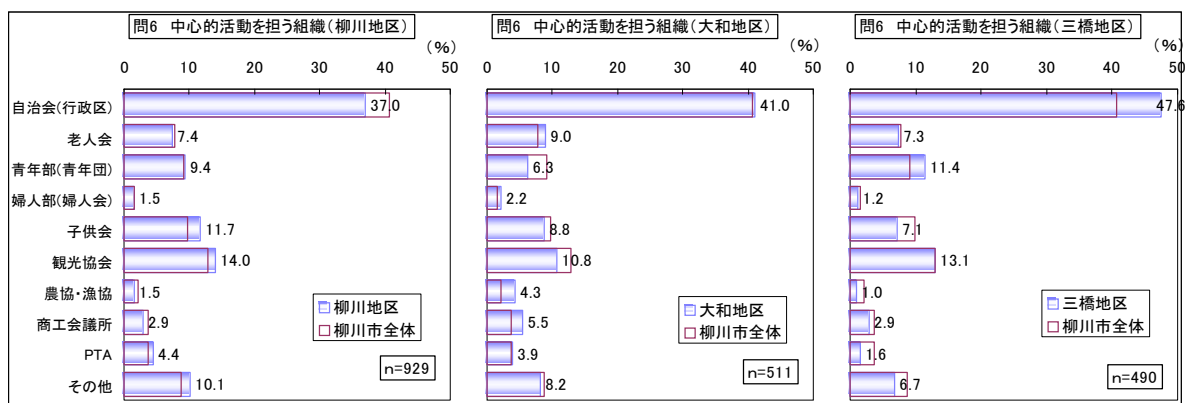
(三橋地区)

「川下り」が 49.0%と最も多く、次いで「クリーク及びクリークのある景観」(41.7%)、「今古賀風流」(34.7%)となっています。



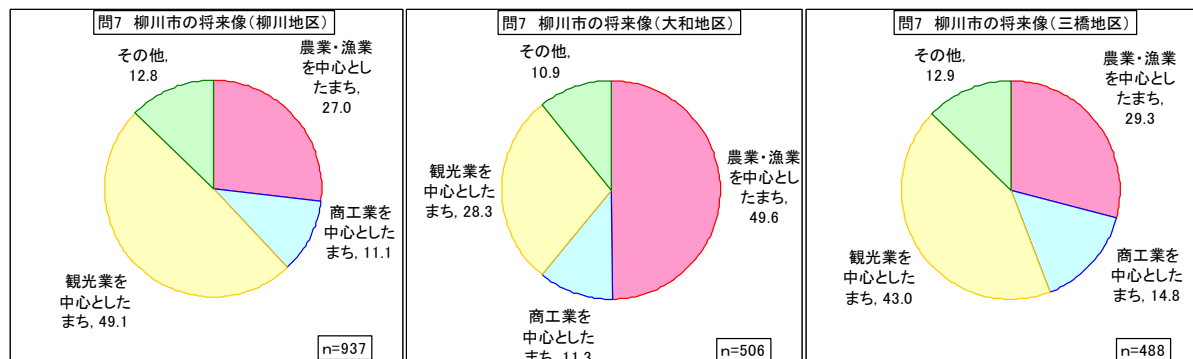
問6 柳川市のまちづくりや、自然・歴史・文化を子供たちに伝えていく活動を進めていくとき、地域住民組織の中でどの組織が中心的活動を担うことができると思われますか？

柳川地区、大和地区、三橋地区ともに「自治会（行政区）」（柳川地区 37.0%、大和地区 41.0%、三橋地区 47.6%）という回答が最も多くなっています。



問7 柳川市の将来像として、どのような方向が望ましいと思いますか？

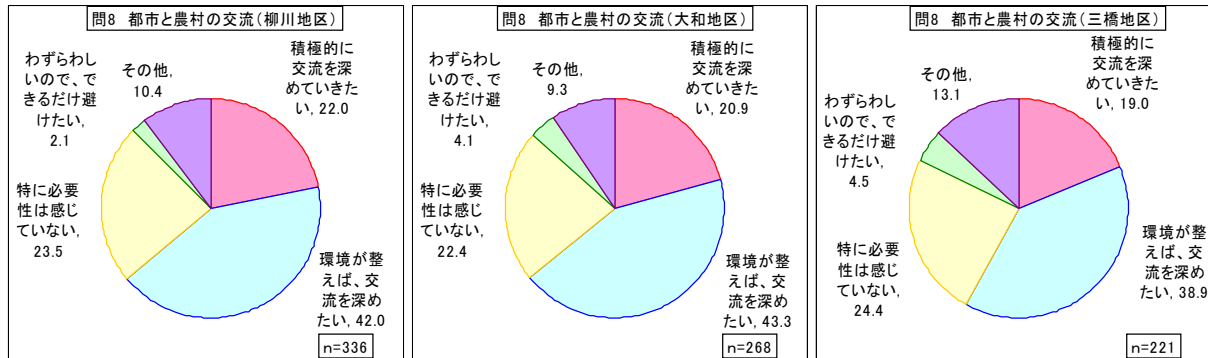
柳川地区、三橋地区では「観光業を中心としたまち」（柳川地区 49.1%、三橋地区 43.0%）、大和地区では「農業・漁業を中心としたまち」（49.6%）という回答が最も多くなっています。



問8 農業に携わっている方におたずねします。

最近、日本各地で都市と農村の交流が盛んになっています。柳川市の農家と都市住民とが交流することについてどのように思いますか？

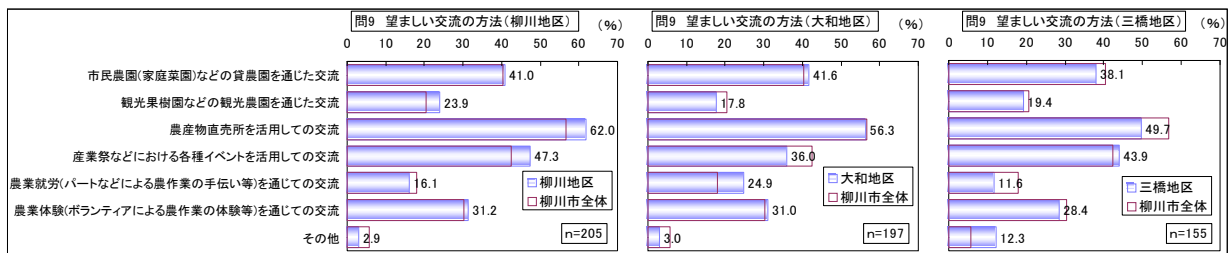
柳川地区、大和地区、三橋地区ともに「環境が整えば、交流を深めたい」（柳川地区 42.0%、大和地区 43.3%、三橋地区 38.9%）という回答が最も多くなっています。



問9 問8で1または2と答えた方におたずねします。

交流の方法として、どのような方法が望ましいと思いますか？

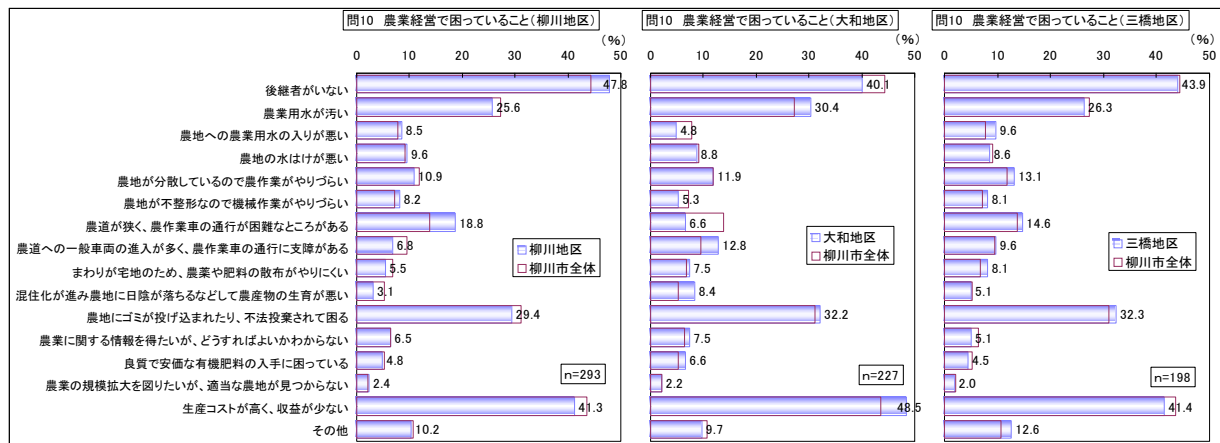
柳川地区、大和地区、三橋地区ともに「農産物直売所を活用しての交流」（柳川地区 62.0%、大和地区 56.3%、三橋地区 49.7%）という回答が最も多くなっています。



○柳川市の農業について

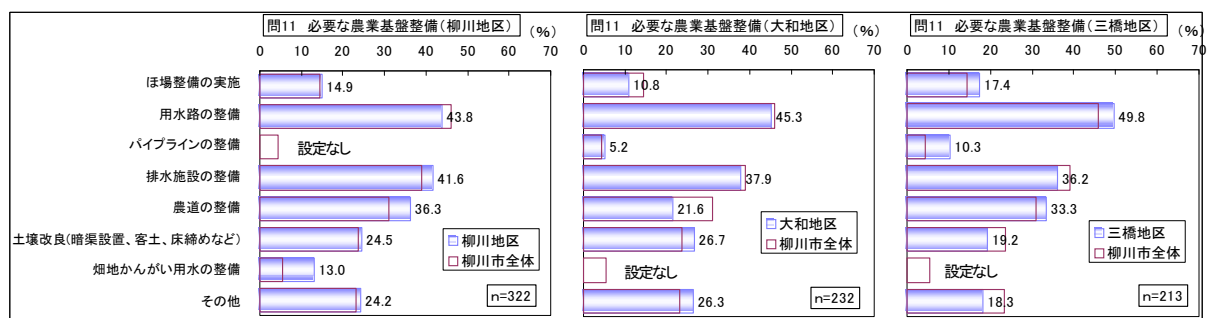
問10 お住まいの行政区において農業を行う上で、困っていることはどのようなことですか？（複数回答）

柳川地区、三橋地区では「後継者がいない」（柳川地区 47.8%、三橋地区 43.9%）、大和地区では「生産コストが高く、収益が少ない」（48.5%）という回答が最も多くなっています。



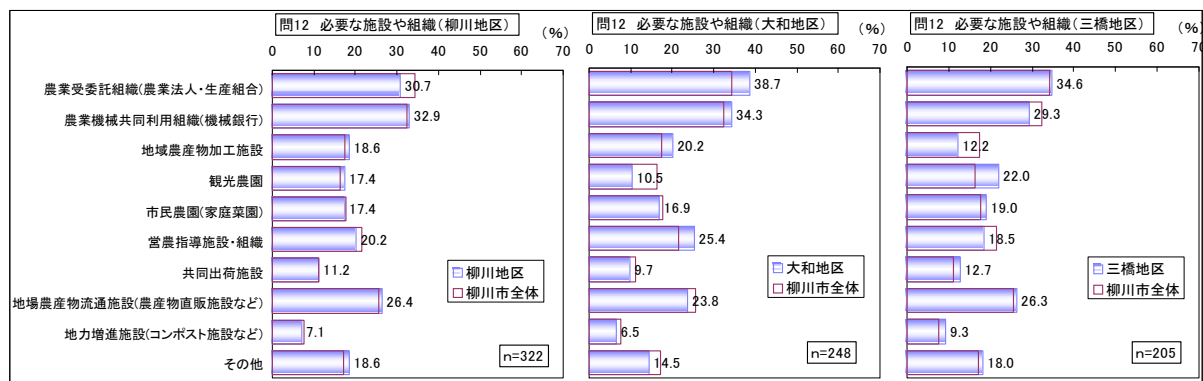
問11 お住まいの地域において農業を行っていく上で、早急に対応が必要な農業基盤整備がありますか？（複数回答）

柳川地区、大和地区、三橋地区ともに「用水路の整備」（柳川地区 43.8%、大和地区 45.3%、三橋地区 49.8%）という回答が最も多くなっています。



問12 お住まいの地域において農業を行っていく上で、今後、新たに施設や組織として何が必要ですか？（複数回答）

柳川地区では「農業機械共同利用組織（機械銀行）」（32.9%）、大和地区、三橋地区では「農業受託組織（農業法人・生産組合）」（大和地区 38.7%、三橋地区 34.6%）という回答が最も多くなっています。



○自由意見

自由意見では、「掘割の保全・整備に関して」や「観光・交流に関して」の意見が多く見られました。下表に、自由意見で記載の多かった項目の票数を整理します。

	意見の概要	票数
①	掘割の保全・整備に関して	183
②	観光・交流に関して	124
③	道路・交通基盤に関して	121
④	商工業に関して	77
⑤	農業に関して	78
⑥	伝統文化の保護・継承に関して	47
⑦	人づくりに関して	53
⑧	医療・福祉施策に関して	45
⑨	行政運営に関して	67
⑩	下水道整備に関して	37

次項から、主な自由意見を集約した一覧表を整理します。

自由意見集約表

項目	掘割の保全・整備に関して	観光・交流に関して
意見	○掘割の水質改善について ・適度な水量を確保すべき ・合成洗剤の使用、販売を禁止すべき ・上流に位置する市町村との連携を強化すべき ・水辺の生物の再生を望む（ゲンゴロウ、ホタル、魚等） ・水質浄化についての方策を再検討すべき ・産業排水の監視を強化すべき ○掘割の整備方針について ・風情ある昔の面影の再編を望む ・水の都の構想を望む（オアシス構想、ベニスのようなまちづくり等） ・動植物が生息できる自然な形で整備すべき ・安全へ配慮すべき（道路縁の崩落防止、ガードパイプ等） ・計画段階からの市民参加を望む ・局所的でなく市全体の掘割の整備を望む ・堀の崩壊への対策を望む ・四季を感じられる花がほしい ・水とふれあえる空間を望む（遊歩道、公園等） ・川下りの要所を拡張すべき（レンガ倉庫付近） ・大水災害を想定した整備を行うべき（かん排事業等） ・排水性の向上を望む ○掘割の維持管理について ・市や業者による管理を望む ・川下り以外の区間も清掃すべき ・住民の協力が不可欠 ・観光ボランティアによるパトロールを実施すべき ・住民と行政の協力が必要 ・定期的な清掃を実施すべき ・ポイ捨て、ペットの糞への対策が必要 ・堀干しの実施 ・川底のヘドロ除去を行うべき ・害虫対策を望む ○対外的活動について ・国内外へもっとアピールすべき	○観光基盤の整備について ・案内標識の整備が必要（観光施設、町名等） ・宿泊施設の充実が不可欠 ・駐車場の維持管理、駐車料金の見直し ・公共施設整備が必要（休憩所、トイレ、ベンチ等） ・観光客が歩ける散歩道の整備を望む ・若者を意識した企画が必要 ・目玉観光スポットが必要（柳川城の復元、西鉄柳川駅のレトロ化、飲食店等） ○住民意識の高揚について ・観光都市としての意識作りが必要 ・郷土愛の育成が必要（説明看板の整備） ○地域特産物の開発・PRについて ・うなぎ料理以外の特産品が必要（両開ぶどう、川下りせんべい等） ・体験の場が必要（ぶどう狩り、いちじく狩り、有明海の海産物） ・インターネットを活用したPRが必要 ・郷土食とそれを提供するレストランが必要 ○柳川市の特性を生かした交流について ・掘割を生かしたイベントを望む（子供たちによるカップ水泳大会、手作りイカダ競争、イカダの上での相撲大会等） ・史跡歴史観光の推進が必要 ・近隣市町村との連携による観光企画が必要 ○滞在型観光の推進について ・宿泊施設の充実が必要 ・旧柳川ホテルの跡地を有効活用すべき ・テーマパーク設置を望む（堀と歴史をPR） ○観光産業の活性化、交流人口の拡大について ・多様な体験観光ルートを企画すべき（筑後一円の広域的な連携） ・学童ホームステイを実施すべき ○来訪者の意向把握について ・修学旅行の学生へのアンケート調査を実施すべき

項目	道路・交通基盤に関して	商工業に関して
意見	○交通基盤の充実について ・公共交通の整備が必要（コミュニティバス路線の新規設定等） ・既存サービスのサービス水準向上を望む（バリアフリー化、増便、時間短縮等） ・駅周辺の整備を望む（西鉄柳川駅、蒲池駅等） ・道の駅の整備を望む ○道路整備について ・自動車走行性の向上を望む（高規格化、時間短縮、事故防止、緊急車両の通行配慮等） ・歩きやすい道を望む（段差の解消、道路の水はけの改善等） ・歩道や自転車道の整備 ・通学路の安全性確保を望む（犯罪、事故防止等）→街灯の設置等 ・駐車場整備を望む（買い物の利便性向上） ・地域の生活道路の整備を望む（優先順位を明確に） ・合併記念環状道路の建設により旧1市2町の一体化を ・道路に緑を望む（街路樹、花壇等） ○道路の維持管理について ・夜間工事中止を望む（騒音） ・障害者への気遣いを望む（点字ブロック上の障害物等） ・路面損傷箇所の早急な補修を望む	○企業誘致について ・環境にやさしい企業の誘致を進めるべき ・私立の高校、大学、専門学校を誘致し学園都市化すべき ・工業団地を設置すべき ○中心街・商店街の活性化について ・商店街の再編が必要（2つの商店街の一本化） ・観光客を商店街へ呼び込むルートの道路整備、景観形成が必要（電線の地中化等） ・駅周辺を活性化すべき ・通常時のにぎわい創出が必要 ・歩行者、自転車中心のまちづくりを望む ・局所的でなく、他地域への波及効果を持つ活性化策を望む ・柳川をイメージしたモノづくり ・川下りと商店街を回遊するルート整備 ・地域特産物の創出・販売 ・魅力的な店舗が必要（大型店舗、複合施設、温泉施設、ワンちゃんカフェ等） ・駐車場整備が必要 ・空き店舗を有効活用すべき（若者の出店支援等） ○購買の市外流出防止について ・地域特産品直売所の設置を望む（道の駅等） ○地場産業の育成について ・若者や女性が働ける環境づくりが必要 ・地元で働ける組織や施設を望む ・有明海の資源を生かした産業開発を望む ・新商品の開発が必要

項目	農業に関して	
	担い手の育成・確保について	多様な農業振興について
意見	○農業・漁業、商工業、観光業の連携について ・若手リーダーや指導者の育成が必要 ・農業、漁業の振興から総合的な産業振興への道筋が必要 ○農業・漁業の振興について ・食生活を大事にすべき ・有明海の手取干しや魚のPRが必要 ・漁業者のマナー向上を望む（網の管理など） ・二次加工所、販売所の設置を望む ○後継者育成について ・農業大学校等の育成システムが必要 ・農地提供システムを構築すべき ・農協を活用したアピールが必要 ○組織の育成について ・雇用機会の創出が必要 ・法人形態での運営が必要 ・自ら考え、自ら行動する組織の育成 ・有償ボランティアによる農地管理を望む ・市民参加型の農業展開が必要 ・繁忙期のパートタイマー雇用システム ・農業受委託組織制度 ○食育の推進について ・子供たちの健全な育成 ・幼児・小学生等の農業体験の場	○販売所の整備について ・風景を見ながら食事が出来る場を望む ・土日の市場や道の駅の直売所の設置を望む ○零細農家の支援について ・農業機械の共同保有システムの構築を望む ○加工所の整備について ・地場産品を活用すべき ○無農薬での農業政策について ・指導・援助体制の確立を望む ・EM菌利用の推進（生ゴミ処理をする場の確保）が必要 ○地産地消体制の確立について ・給食へ地元産品を導入すべき（ぶどうのジュースなど） ○排水対策について ・田畑の排水への配慮が必要 ○農業用排水の管理について ・農業用水の塩分濃度上昇への配慮が必要 ○農道の整備について ・機械作業への配慮を望む ・局所的でなく、広域的整備を望む ○荒廃地の管理について ・減反政策への対応が必要（農地の賃貸、市民農園等） ○市民農園・観光農園の整備について ・干拓地を活用すべき ・果樹園芸を推進すべき ・年間を通して花が見られる施設を望む

項目	伝統文化の保護・継承に関して	人づくりに関して
意見	○イベント等について ・既存イベントを活性化すべき (堀干し、白秋祭、産業祭、おにぎえ、土曜夜市、さげもんめぐり、ソーラーボート大会、干潟スキー、ドッジボール大会) ・新規イベントを企画すべき (映画祭、ドッジボール大会(復活)、観光客から川柳募集等) ・マナーにならないよう工夫が必要(外部からの人が体験できる祭等) ・地域資源を活かしたイベントの発展を望む (ソーラーボート大会、干潟スキー等) ・市民が一体となる行事・催しを開催すべき ・地域イベントの情報発信を充実させるべき (掲示板の設置、マスコミの活用、駅等への掲示等) ○川下りの発展について ・新たなサービスが必要 (水上タクシー、ミニ水族館等) ・サービス向上が必要 (細かな観光ガイド等) ・コースの拡大が必要 ○伝統・文化の継承について ・白秋のふるさとらしきを守るべき ・情報を継承する工夫が必要(勉強会や体験会) ・住民一人一人がもっと柳川市について知るべき (名所・旧跡案内マップの全戸配布) ・石造物調査を実施してはどうか ○対外的活動について ・北原白秋のまちとしてアピールすべき(西鉄柳川駅へのからくり人形設置等)	○文化意識について ・市の政策として取り組むべき ・柳川市の文化について大人と子供が話す場を設置すべき ・地域を愛するリーダーの育成が必要 ○文化施設・機会等の充実について ・夜間の講習会の開催を望む ・映画館の整備を望む ・図書館の充実を望む(蔵書、分館の充実) ・レジャー施設の整備を望む(プール等) ・公民館の再編・整備が必要 ・青少年研修宿泊施設等の整備を望む(自然を生かした体験学習の場として) ・コンサートなど文化的イベントの実施を望む ○地域コミュニティの育成について ・地域間、世代間交流が必要 ・市民全体がボランティア精神を持つべき ・若者の活動と発表の場が必要 ・外部から来た人の迎入れ体制の充実が必要 ・NPO等の育成が必要 ・バランスのとれた(職業や年齢)自治会形成が必要 ・地域住民総出のイベント開催を望む ○他都市との交流について ・県内他都市との交流が必要(小中高校等) ・国際交流を推進すべき(イベント等による観光への発展) ・地域の閉鎖的考えを改め、グローバルな視点を身に付けるべき

項目	医療・福祉施策に関して	行政運営に関して
意見	○高齢者・障害者への福祉について ・福祉施設の整備を望む（高齢者向けマンション、パワーリハビリ施設、ケアハウス、健康推進施設等） ・公共施設のバリアフリー化を望む ・公共交通利用料の割引制度を望む ○子育て支援について ・次世代育成計画を推進すべき ・子供の遊び場の充実を望む（舎人公園） ・各種イベント・サークル等の充実を望む ・母親教育・青少年教育・家庭教育等の充実を望む ・金銭的な支援を望む（保育料の低減） ・共働きを考慮した制度の充実を望む（学童保育等） ・乳児医療の充実を望む ○医療について ・公的医療施設の整備を望む（県立病院を市民病院へ） ・救急対応病院設置を望む ・主要公共機関に AED（除細動器）を設置すべき	○行政運営について ・行政組織の横の連携が必要 ・公と個の役割分担、組織づくりが必要 ・市民の意見を踏まえた検討、市民とのコミュニケーション、情報開示が必要 ・市職員が自ら動く、リーダーシップを望む ・効率的な行政運営、公共事業の見直し ・行政サービスの向上を望む（土日営業、対応マナー、書類の簡素化等） ・職員（議員）の給料や退職金の見直しを望む ・職員の意識改革、勉強会が必要 ・車での広報の改善を望む（聞きとりやすくゆっくりと） ・クリーンな行政運営を望む ・行政サービスの偏りをなくす必要がある ○まちづくりについて ・計画の実現に向けた努力が必要 ・組織やボランティアの連携が必要 ・各地域の文化的特色を活かしたまちづくりを望む ・乱開発の抑制が必要 ○市町合併を踏まえたまちづくりについて ・地理的特性を踏まえたまちづくりを望む ・組織や体制の強化により、すみずみまでの市民意向の把握を望む ・端々の町への配慮を望む ・20 年先を見据えたまちづくりが必要 ・若者のために税金を使うべき

項目	下水道整備および生活環境基盤に関して	自然環境の保全に関して
意見	○下水道整備について - 合併処理浄化槽の整備を推進すべき（各種料金が高等） ○生活環境の改善について - ゴミ回収サービスの改善を望む（ステーション整備、カラス対策、祝祭日の回収） - 市民の環境意識向上を望む（ゴミ分別の徹底、デポジット制度の導入、ポイ捨て防止対策、ペット管理のマナー改善等） - 不法投棄対策 蚊、ハエなどの害虫対策を望む - 業者への指導徹底を望む（煙、悪臭） - 側溝の整備を望む - 除草作業を望む - 路上駐車取締り強化を望む ○公園・緑地の整備・管理について - 公園等の施設整備充実を望む（安全対策、バリアフリー化、遊具） →むつごろうランド、高畑公園等 - 雑草の管理、植樹の管理 - 運動公園の整備を望む（全国大会を誘致できる規模） ○情報基盤の整備について - 周辺部の情報基盤整備を望む	○有明海の環境保全について - 諫早湾干拓事業中止活動をすべき - 海苔の酸処理方法を中止すべき - 宝の海を再生すべき - 海辺のごみの回収を行うべき ○市民意識について - 一人ひとりの意識が大切 - 子供の頃から川の大切さを伝えることが重要 - 柳川市の貴重な財産としての認識が必要

項目	土地利用に関して	安心・安全なまちに関して
意見	○過疎化対策について ・福岡市のベッドタウンとしてアピールすべき ・西鉄のスピードアップを望む ・市営住宅の整備を望む（誰でも入れるように） ・大学等を誘致し学園都市化すべき（若者が住めるまちに） ・定住者の意向を重視し、均衡ある発展を望む ・住みたいと言われるまちへ ○土地利用について ・ゾーン区分による計画的な土地利用 ・市域の均衡ある発展を望む ・缶造跡地の管理 ・地価が高い ・乱開発は望まない（高層マンション、大規模商業施設等） ○市街地整備について ・市町合併による柳川駅等の活用 ・西鉄柳川駅前の整備を望む ○農作業時の配慮について ・消毒時の周辺家屋への対策が必要	○安心・安全なまちづくりについて ・町内会単位の防犯体制・設備の充実を望む ・通学路の安全、防犯対策（街灯の整備、パトカー巡回の強化など）を望む ・台風等の災害対策を望む ・水路への安全対策を望む ・交通事故の防止対策を望む ・地盤沈下対策を望む ○交通マナーの啓発について ・各家庭への啓発活動を行うべき ・老人会等への交通ルール講習会等を行うべき（高齢者の自転車への対策） ・自転車に乗る人のマナーの向上を望む ・違法駐車車両の取締りを強化すべき

項目	農村景観に関して	その他
意見	○美しい田や畑の保全について ・昔の面影の復興を望む（どんこ舟等） ・「自分たちで景観を守る」という意識づくりが必要 ○掘割の景観形成について ・市の条例制定による罰則規制が必要（看板等の規制） ・掘割の夜景のPR（イルミネーション等） ・掘割と周辺の町並みとの調和を図るべき ・古い街並みの保存・復刻（掘割、建物、桜並木等） ○農地へのゴミ捨て防止について ・取締りを強化すべき ○日本一美しいまちづくりについて ・景観の統一が必要 ・有明海を眺める施設整備を望む（夕日の鑑賞）	○調査について ・農業以外の項目についても調査を望む ・若者の意見を聞くべき ・行動計画の策定は慎重に行うべき ・農業に従事していないため回答に際して不明な点が多い ○税金について ・住民税、固定資産税の引き下げを望む ○その他 ・期限付きの回覧の廃止を望む ・金メダルをとった阿武のり子さんを顕彰すべき ・県南センターの再開を望む

(3) 調査結果の考察

○定住条件の向上（問1～問3）

住まいの評価として、自然環境やコミュニティに対する評価が高く、下水道や道路網等の生活環境や高齢者・障害者等への福祉に対する評価が低くなっています。

行政が早急に対応すべきこととしても、下水道や道路網、緑地等の生活環境整備や福祉施策、働き場所の確保等への要望が高く、これらの対応による定住条件の向上が図られるものと思われます。

特に、下水道整備に関しては自由意見でも数多く見られ、掘割の環境整備の面からも計画的な整備に取り組むことが望まれています。

○掘割、歴史・伝統文化等の活用（問4～問6）

掘割や歴史・伝統文化等に対する市民の意識は高く、その保全や活用に対する期待が高くなっています。

特に、子供たちに残したい、伝えたいものとして、「クリーク・クリークのある景観」や「川下り」と回答した人の割合が高くなっており、地域の財産として重要な役割を担っていることが伺えます。

その保全方法としては、学校や自治会を始めとした地域での役割が重要であると考えている人が多く、柳川ならではの学習プログラムとしての確立が期待されています。

また、自由意見においても、掘割に関する記載が数多く見られ、「掘割の整備」や「掘割の清掃」等に取り組み、市民の誇りとして保全・活用が求められています。

○交流への期待（問7～問9）

本市の将来像としては、柳川地区および三橋地区では「観光業を中心としたまち」を、大和地区では「農業・漁業を中心としたまち」を多くの人が選択しており、観光と農業・漁業が本市の特徴となっていることが伺えます。

また、都市と農村の交流については、6割程度が肯定的な意見を占めているものの、「環境を整えば」との条件付の意見が大半であり、今後の条件整備が望まれています。

その交流の方法としては、「農産物直売所を活用しての交流」などが挙げられており、所得の向上の機会として期待されていることが伺えます。

○地域農業の発展（問10～12）

農業経営で困っていることとして、「後継者がいない」や「生産コストが高く、収益が低い」、「農地にゴミが投げ込まれたり、不法投棄されて困る」、「農業用水が汚い」といったことがあ

げられています。

必要な農業基盤整備については、「クリークの整備」や「排水施設の整備」、「農道の整備」を回答した人が多くなっています。一方、「ほ場整備」を回答した人は 15%程度と、現在までのほ場整備の取り組みの成果が反映されています。

この結果を地区別にみると、「ほ場整備」は蒲池地区や三橋地区全体で要望が高く、「クリーク整備」や「排水施設の整備」は、城内地区や東宮永地区、矢ヶ部校区などを中心にほとんどの地区で要望があがっています。また、「農道の整備」は、東宮永地区や蒲池地区、藤吉校区などで要望があがっています。

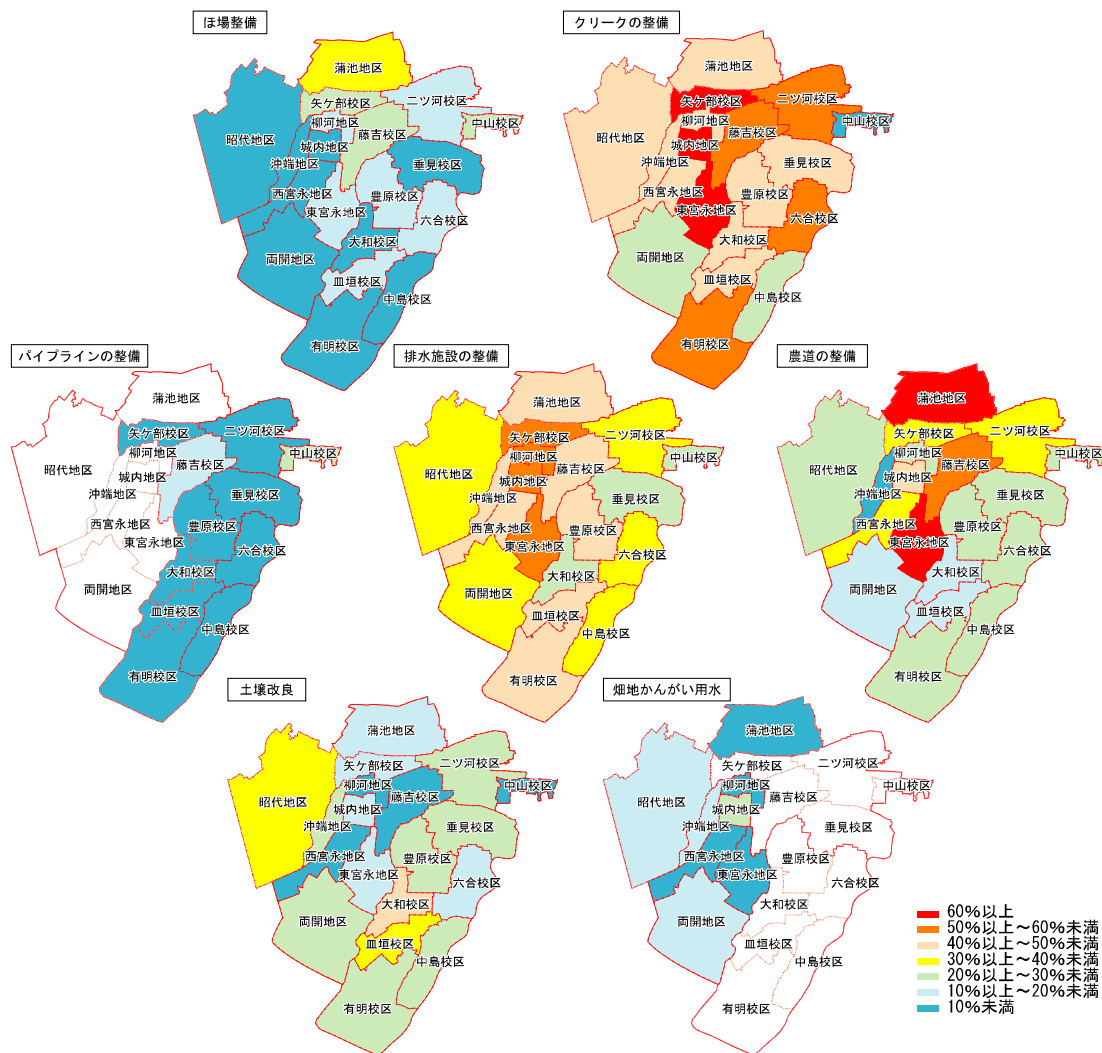


図1-3-1 基盤整備に関する地区別の回答割合

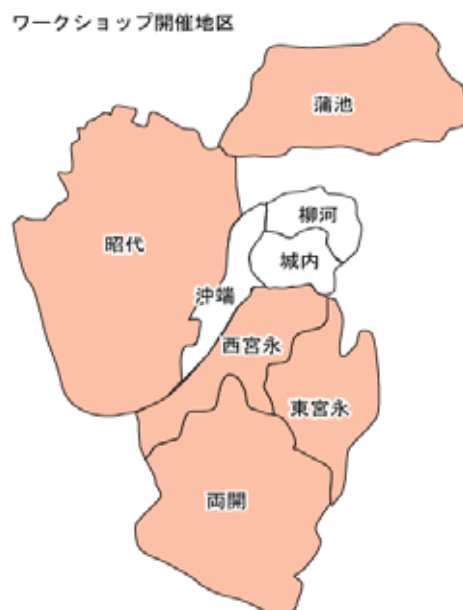
また、新たな施設や組織として必要なものとして、「農業機械共同利用組織」や「農作業受委託組織等」の組織への要望、「地場農産物流通施設」への要望が高くなっています。その他の施設や組織についても、2割程度の要望が見られるなど、多様な支援策の充実が求められています。

２．ワークショップおよびヒアリング

（１）ワークショップ等の概要

本市の農業・農村振興においては、「掘割」の保全・活用が一つのキーワードとして重要になります。そこで、平成 16 年度に旧柳川市において、市の農業振興に中核的な役割を担う地区である、西宮永地区・東宮永地区・両開地区・昭代地区・蒲池地区の中から、本市の重要課題である「掘割」に関する関心が高い行政区を抽出しワークショップを開催しました。

また、全市的な要望の把握を行うため、旧柳川市では平成 16 年度に、旧三橋町と旧大和町においては平成 17 年度に、各地区の地元役員や既存組織を対象として、地区ごとの課題や問題点、要望等に関してヒアリング調査を実施しました。



（２）ワークショップの開催

ワークショップの開催日程および参加者の一覧を整理するとともに、ワークショップや水路委員会・地元役員のヒアリング結果として、意見集約表および集落点検マップを整理します。

１）ワークショップの開催状況

開催日	地区名	行政区名
平成 16 年 11 月 5 日（金）	昭代地区	沖田、長藤、浜武、八ッ家、吉原西
平成 16 年 11 月 12 日（金）	蒲池地区	金納、鹿島、中古賀、立石大沖団地
平成 16 年 11 月 16 日（火）	東宮永・西宮永・両開地区	鳥の水、対米東、馬場小路第二、中小路、 両開地区開発促進協議会①, ②



昭代地区 WS 状況



蒲池地区 WS 状況



東宮永・西宮永・両開地区
WS 状況

●昭代地区（平成 16 年 11 月 5 日（金））

沖田行政区

委員	氏名	備考
委員	北原 喜代美	農業 班長
委員	古賀 義光	書記係
委員	松本 岩生	
委員	古賀 定雄	
委員	北原 輝彦	農業
委員	北原 司	農業
ファシリテーター	箴島 康吉	

長藤行政区

委員	氏名	備考
委員	妻夫木 一成	班長
委員	待鳥 一彦	農業
委員	妻夫木 幸一	農業 書記係
委員	田中 勝栄	
ファシリテーター	木戸 剛	

浜武行政区

委員	氏名	備考
委員	田中 正隆	農業 班長
委員	大曲 英彦	農業
委員	田中 吉信	農業
委員	田中 実	書記係
委員	田中 博満	
委員	田中 信義	
ファシリテーター	古賀 栄治	

ハツ家行政区

委員	氏名	備考
委員	枕島 益三	農業 班長
委員	太田 明美	農業 書記係
委員	太田 忠男	農業
ファシリテーター	岩田 阿佐美	

吉原西行政区

委員	氏名	備考
委員	荒巻 寿	農・漁業 班長
委員	荒巻 博	農業
委員	大曲 照光	会社員
委員	古賀 強	
委員	荒巻 正直	農業 書記係
委員	大曲 達司	農業
委員	大曲 晃	農業
ファシリテーター	畑瀬 啓二	

●蒲池地区（平成 16 年 11 月 12 日（金））

金納行政区

委員	氏名	備考
委員	荒巻 能喜	班長
委員	中村 輝男	農業
委員	野口 二義	農業
委員	野口 昭弘	自営業 書記係
ファシリテーター	岩田 阿佐美	

鹿島行政区

委員	氏名	備考
委員	与田 邦彦	班長
委員	与田 茂好	農業
委員	相島 康弘	農業
委員	萩島 繁喜	会社員・農業 書記係
ファシリテーター	梶島 忠大	

中古賀行政区

委員	氏名	備考
委員	萩島 善彦	班長
委員	金納 隆雄	農業
委員	金縄 茂夫	農業 書記係
委員	金縄 治道	農業
委員	萩島 清美	農業
ファシリテーター	畑瀬 啓二	

立石行政区

委員	氏名	備考
委員	本園 裕貴	農業
委員	大坪 昭	農業
委員	本園 清美	農業 班長
委員	渋谷 純一	農業 書記係
委員	大坪 一成	農業
委員	大藪 あつし	農業
ファシリテーター	木戸 剛	

●西宮永・東宮永・両開地区（平成16年11月16日(火)）

鳥ノ水行政区

委員	氏名	備考
委員	宮野 信一	班長
委員	元村 修	農業 書記係
委員	藤吉 篤三郎	農業
委員	石橋 享	農業
委員	広木 洋一	農業
委員	中村 義美	農業
ファシリテーター	古賀 栄治	

対米東行政区

委員	氏名	備考
委員	江口 勝	会社員 班長
委員	藤吉 治	農業
委員	江口 良一	農業
委員	富重 政喜	農業
委員	大城 広美	書記係
委員	実藤 和彦	農業
ファシリテーター	箴島 康吉	

中小路行政区

委員	氏名	備考
委員	原田 孝	農業 班長
委員	中島 弘行	農業 書記係
委員	松尾 忠弘	農業
ファシリテーター	梶島 忠大	

馬場小路行政区

委員	氏名	備考
委員	山田 範男	班長
委員	木下 昭博	
委員	今村 年光	書記係
委員	古賀 政一	
委員	北島 正義	会社員・農業
委員	北島 正巳	会社員・農業
ファシリテーター	畑瀬 啓二	

両開地区開発促進協議会①

委員	氏名	備考
委員	山田 辰廣	農業 班長
委員	森田 栄良美	公民館長 書記係
委員	亀崎 敏彦	自営・漁業
委員	古賀 寿代	
ファシリテーター	岩田 阿佐美	

両開地区開発促進協議会②

委員	氏名	備考
委員	新開 隆義	班長
委員	猿渡 昭光	農業
委員	山田 隆広	農業
委員	竹下 次男	農業
委員	高口 道義	農業 書記係
ファシリテーター	木戸 剛	

２）ワークショップ等の結果

各地区のワークショップで出された意見を、「農業生産基盤」、「農村生活環境」、「地域資源利活用」で区分すると以下のような結果となります。

次項より、各地区におけるワークショップ等の意見を整理した集落点検マップを整理します。

	農業生産基盤	農村生活環境	地域資源利活用
昭代地区	○水路が狭い ⇒幅の広い水路に ○悪臭がひどい、水の流れが悪い ⇒ 護岸工事の実施 ○護岸が壊れている、土羽の崩壊 ⇒ 護岸工事の実施 ○ポンプの破損	○通学路に歩道が無い、歩道と道路の段差を無くして欲しい ⇒歩道の整備 ○水路の水が汚い ⇒下水道整備 ○水路沿いの道が狭い ⇒護岸工事とあわせた道路の拡幅 ○雑草が多い ○水路 ⇒ 冬場の水量確保(防火用水として)	○国営水路ができたところは水の流れが良くなった(唯一自慢の国営水路)
蒲池地区	○水質が悪い ⇒浚渫、家庭排水対策 ○農道が狭い ⇒拡幅	○生活道路が狭い ⇒新たな道路整備	○国営水路の整備後は水流も良くなった ○公園整備で周囲が美しくなった
東宮永・西宮永	○集落内のクリークが汚れている、ごみやヘドロが多い ⇒ごみは地元で拾う、浚渫の実施 ○水路の断面不足、土砂の堆積 ⇒浚渫の実施、護岸整備 ○暗渠の管理不足 ⇒暗渠部の浚渫 ○堰の管理がしにくい ⇒堰のハンドルの付け替え	○道路幅員が狭い ⇒護岸整備にあわせた拡幅、地元からの土地の提供 ○危険箇所(自転車の転倒がみられる) ○防火施設 ⇒防火用水確保のためゲート設置	○護岸整備したところは水の流れが良くなった、コイが多く生息している
両開地区	○排水が悪い、水路の断面不足 ○旧堤防 ⇒ 旧堤防の整備	○海岸堤防の早急な実施 ⇒堤防の補強、嵩上げ ○道路が狭い ⇒ 道路の拡幅 ○下水道 ⇒ 下水道工事	○ひまわり公園、コスモス園、花火大会 地域の誇り ○大人形(下八丁集落)

○昭代地区

○蒲池地区

○東宮永・西宮永

○両開地区

(3) ヒアリングの開催

ヒアリングの開催日程および参加者の一覧を整理するとともに、ヒアリングの結果として地元要望聞き取り図面を整理します。

1) ヒアリングの開催状況

(大和地区)

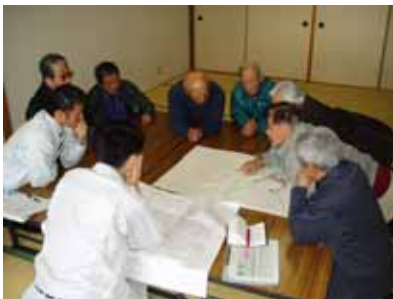
開催日	地区名	行政区名
平成 18 年 1 月 30 日 (月) AM	豊原校区	北徳益、南徳益、西徳益、豊原野田、四十丁、四十丁樋、南四十丁、上塩塚東、上塩塚西
平成 18 年 1 月 30 日 (月) PM	大和校区	南野、大和作出、大和流町、大和中開、明古、南開、番所
平成 18 年 1 月 31 日 (火) AM	皿垣校区	由布、田尻、政屋、皿垣北、皿垣南、宇土、二十五丁、江島東、江島北
平成 18 年 1 月 31 日 (火) PM	有明校区	甲木、上土居、中土居、荒開西、荒開東、弁天、大和干拓
平成 18 年 2 月 1 日 (水) AM	中島校区	西在内山、南二重、上ヶ地、三五平
平成 18 年 2 月 1 日 (水) PM	六合校区	鷹尾東、鷹尾西、鷹尾北、西津留、六合古川、下棚町、中棚町、江崎



ヒアリングの実施状況 (大和地区)

(三橋地区)

開催日	地区名	行政区名
平成 18 年 2 月 6 日 (月) AM	二ツ河校区	新村、吉開 1、吉開 2、起田、木元、磯島
平成 18 年 2 月 6 日 (月) PM	二ツ河校区	上久末、下久末東、下久末西、百町 1、百町 2、百町 3、百町 4
平成 18 年 2 月 7 日 (火) AM	中山校区	中山 1 の 1、中山 1 の 2、中山 2、中山 3 の 1、中山 3 の 2、中山 4
平成 18 年 2 月 7 日 (火) PM	矢ヶ部校区	南矢ヶ部東、南矢ヶ部南、南矢ヶ部中、中矢ヶ部
平成 18 年 2 月 8 日 (水) AM	垂見校区	北村、六田、垂見南、中通り、宮の前、垂見下、平木
平成 18 年 2 月 8 日 (水) PM	垂見校区	棚町沖田、棚町、水町、白鳥、御仁橋、五拾町
平成 18 年 2 月 10 日 (金) AM	藤吉校区	江曲南、藤吉、今古賀東、今古賀西
平成 18 年 2 月 10 日 (金) PM	藤吉校区	蒲船津 1、蒲船津 2、蒲船津 3、蒲船津 4、散田東、散田西



ヒアリングの実施状況 (三橋地区)

●ヒアリング対象者名簿（大和地区（行政区長））

行政区		氏名
豊原校区	北徳益	横山 雅春
	南徳益	高田 一徳
	西徳益	鳥取 義行
	豊原野田	高口 末義
	四十丁	大橋 正二
	四十丁樋	高尾 実
	南四十丁	柿添 武富
	上塩塚東	松藤 徳光
	上塩塚西	吉田 広美
大和校区	南野	甲斐田親冬
	大和作出	古賀 秀行
	大和流町	白谷 一臣
	大和中開	松藤 利春
	明古	渡辺 俊信
	南開	田中 正人
	番所	高口 保
皿垣校区	由布	堤 勝彦
	田尻	松藤 政弘
	政屋	古賀 政勝
	皿垣北	平川价一郎
	皿垣南	古賀 保治
	宇土	倉吉 政幸
	二十五丁	堤 光利
	江島東	石川 貢
	江島北	水落 清美

行政区		氏名
有明校区	甲木	小宮 明良
	上土居	浦 秀一
	中土居	堤 弘光
	荒開西	小宮 美明
	荒開東	奥蘭 義満
	弁天	塩塚 正則
	大和干拓	松永 勝利
中島校区	西在内山	松藤 久人
	南二重	田中 直之
	上ヶ地	平川 太
六合校区	三五平	坂井 覚
	鷹尾東	田中 昌二
	鷹尾西	松藤 義生
	鷹尾北	井上 久吉
	西津留	山口 静雄
	六合古川	武藤 茂
	下棚町	中村 初義
	中棚町	江崎 益廣
	江崎	田中二三夫

●ヒアリング対象者名簿（三橋地区（行政区長））

行政区		氏名
二ツ河校区	新村	下川 小一
	吉開 1	田中 良隆
	吉開 2	友添 勲
	起田	野田 嗣男
	木元	石橋元太郎
	磯島	由衛 徹慶
	上久末	田中 楠男
	下久末東	長谷川利太
	下久末西	川口 湊
	百町 1	目野 勉
	百町 2	藤丸 達
	百町 3	野口 英治
	百町 4	大橋 寛治
中山校区	中山 1 の 1	新開 成美
	中山 1 の 2	山口 修一
	中山 2	松石 斎
	中山 3 の 1	松田 智博
	中山 3 の 2	藤田 司朗
	中山 4	富永 彌吉
矢ヶ部校区	南矢ヶ部東	井上 哲明
	南矢ヶ部南	井上 正勝
	南矢ヶ部中	竹田 智
	中矢ヶ部	近藤 勝彦

行政区		氏名
垂見校区	北村	大橋九州男
	六田	大笹 義人
	垂見南	大橋 光敏
	中通り	森 栄治
	宮の前	高橋 勝明
	垂見下	島田 豊秋
	平木	稲又 秀雄
	棚町沖田	桜木 菊雄
	棚町	高山 宜利
	水町	古賀 正一
	白鳥	松藤 英臣
	御仁橋	山口 廣明
	五拾町	田中 澄人
藤吉校区	江曲南	今村 孝義
	藤吉	藤生 昌男
	今古賀東	下川 保則
	今古賀西	下川 肇
	蒲船津 1	成清 茂木
	蒲船津 2	阿志賀外弘
	蒲船津 3	荒木 利幸
	蒲船津 4	松本 孫三
	散田東	藤丸 武
	散田西	大坪 勝

2) ヒアリングの結果

次項より、各地区のヒアリング結果を整理した地元要望聞き取り図面を整理します。

○大和地区聞き取り図面

○三橋地区聞き取り図面

．地域診断

前段で整理した「柳川市の情勢」や「関連上位計画」、「地域住民意向」等を踏まえ、本市の抱える課題を、自然環境・社会環境・農業生産環境の3つの分類にて抽出し、さらに、それらの中から重点的に取り組む必要のあるものを整理し、重点課題としてとりまとめます。

1．自然環境に関する課題

(1) 文献調査から抽出された課題

○気象、地形・地質

- ・本市は温暖多雨な気候や海面干拓地の平坦な土地、肥沃な沖積土等農業に適した条件にあり、立地条件を生かした更なる農業振興に努める必要があります。
- ・市の南西部では渇水時に地下水位の低下による地盤沈下が懸念され、早急な対策が必要です。

○河川

- ・本市を縦横に巡る掘割は、地域の貴重な資源として保全・活用が必要ですが、生活様式の変化等を背景に水環境の悪化が問題となっています。
- ・掘割の保全・活用については、旧柳川市において「柳川市掘割を守り育てる条例」（愛称「水の憲法」）が施行されており、新市においても条例に基づく取り組みが必要です。

○植生・動物

- ・矢部川水系の水辺環境や掘割、有明海の干潟等が動植物の貴重な生育・生息環境となっており、それらの保全が必要です。
- ・寺社の境内林・屋敷林などに地域の歴史的な景観を構成する自然植生がみられ、これらの保全が必要です。

(2) 住民意向調査から抽出された課題

1) 柳川市農村振興基本計画に係るアンケート調査

- ・掘割の保全に関しては、高い市民意識が伺え、その保全・活用が求められています。
- ・「掘割」は地域の貴重な資源として認識されているものの、その水質等の現状には不満を有しています。
- ・自然を残す形での掘割の整備が求められています。

2) ワークショップ等

- ・掘割の水質浄化により、魚の住める川づくりが求められています。
- ・掘割における土羽の崩壊等がみられ、早急な対応が求められています。
- ・掘割等の改善要望が数多くあげられています。

(3) 関連上位計画との整合を図る上での課題

1) 掘割を生かしたまちづくり事業計画

○掘割の保全・活用

- ・掘割の保全・活用を図るため、「水環境の保全と創造」「水郷の原風景の継承」「掘割を受け継ぐ環境教育」という三つの視点で取り組む必要があります。

2) 田園環境整備マスタープラン

○環境保全

- ・農薬や肥料の適正な使用・有機・減農薬栽培、畜産農家と耕種農家の連携等、環境にやさしい農業展開に取り組む必要があります。
- ・家庭や事業所等における下水道等の整備に取り組み、水質汚濁の防止に努める必要があります。

(4) 自然環境に関する重点課題

○掘割等の水環境保全

本市の自然環境は、掘割を軸とした生物生息環境にて形成されており、掘割の水環境保全の取り組みがまちづくりの中でも重要な位置付けを占めています。そのため、「水の憲法」に基づき、掘割の水環境保全等に取り組む必要があります。

これら豊かな水環境の保全には、生活雑排水や生産活動によって排出される汚濁物質等の排出防止が重要であり、多様な側面からの取り組みが必要です。

また、掘割は、本市の観光資源であるとともに、景観を構成する重要な役割を有しており、美しい田園景観を守り育てるためにも、市民参加による掘割の適正な維持管理体制の確立に努めながら、その保全・活用に取り組むことが重要です。

○有明海の干潟や干拓地の保全と活用

有明海とその広大な干潟には、この地域にしか生息していない珍しい魚介類や植物も多く、豊かな自然環境が温存されています。しかしながら、有明海の水環境悪化や赤潮発生により、魚介類の水揚げ量の激減も見られており、貴重な資源の宝庫である有明海の水環境保全に向けて早急な対応が必要となっています。

2. 社会環境に関する課題

(1) 文献調査から抽出された課題

○人口・世帯

- ・本市の人口は減少傾向と少子高齢化が進んでおり、若年層を中心とした人口の定住施策に取り組む必要があります。
- ・世帯数は、増加傾向にあるため、都市的土地利用と農業的土地利用の整合を図りながら、世帯の増加への対応に努める必要があります。

○土地利用

- ・平坦な地形を活かした高度な土地利用が展開されており、今後も計画的な土地利用に努める必要があります。
- ・農用地は減少傾向にあり、都市的土地利用との整合を図りながら、農用地保全に取り組む必要があります。

○歴史・文化

- ・本市には国・県・市の指定文化財をはじめ、多くの歴史的・文化的資源があり、今後もその保護・継承に努め、交流資源としての更なる活用に努める必要があります。

○交通

- ・国道3路線、主要地方道3路線を軸とした広域交通網が形成されていますが、一部幅員狭小区間が残されるなどの状況にあり、今後も関係機関への改修要望書提出等に取り組む必要があります。
- ・市道をはじめとした生活道路については、狭隘および屈曲した箇所改良・整備や歩道整備に取り組む必要があります。
- ・公共交通の利用促進に向け、6つの鉄道駅のアクセス向上に努める必要があります。
- ・市民の日常的な「足」としてのバスのサービス水準の維持・向上やコミュニティバスの運行等、今後も関係機関への要望書提出等に取り組む必要があります。

○上下水道

- ・下水道等の普及に伴う水需要の増加への対応に取り組むとともに、配水池の増設や老朽管の布設替を進める必要があります。
- ・掘割への生活雑排水の流入防止のため、公共下水道、集落排水処理施設、合併処理浄化槽等を活用した計画的な下水道整備に取り組む必要があります。

○工業

- ・就業機会の確保・充実を図るため企業誘致の推進を図るとともに、地場産業育成や特産品開発など地域と一体となった既存工業の体質強化に取り組む必要があります。

○商業

- ・回遊性を持った商業空間の整備や空き店舗対策等に取り組み、住民の買い物の利便性を高

める必要があります。また観光客を取り込む仕組みづくりに取り組む必要があります。

○水産業

- ・担い手の確保等に取り組むとともに、漁場としての有明海の保全に向けた取り組みが必要です。
- ・有明海海産物を地域特産品として確立することが重要です。

○観光

- ・観光基盤の整備に取り組む必要があります。
- ・本市の観光形態は日帰り・立ち寄りが殆どであり、滞在型の観光振興に努める必要があります。
- ・四季を通したイベントや祭りなどの更なる発展、伝統行事や郷土芸能などの伝承に努めていく必要があります。

○公園

- ・地区ごとのバランスに配慮し、適正な配置と面積確保を図っていくことが必要です。

○情報通信

- ・情報基盤の拡充に努めるとともに、情報化に対応した人材育成に努める必要があります。

○治水

- ・海岸堤防の整備や河川改修の計画的な推進により、災害の防止と被害の低減に努める必要があります。

○消防・防災

- ・消防団の団員確保や建物の中高層化に対応した消防資機材の充実を図る必要があります。
- ・水利施設として利用される掘割の年間を通した水量確保が必要です。

○教育

- ・教育施設の老朽化に対応し、維持補修工事の計画的な推進が必要です。
- ・豊かな人材育成に取り組むとともに、掘割や郷土の歴史・文化等に関する学習の場の拡充を図り、郷土愛を高める必要があります。

○スポーツ・文化活動

- ・市民のスポーツ・文化活動の活発化を促すため、施設・設備の充実を図る必要があります。
- また関係団体や組織の育成・支援に努める必要があります。

○ごみ

- ・ごみの減量化、収集・処理体制等の確立に努める必要があります。

○福祉

- ・すべての人々が安心して暮らせるように、利用者ニーズを踏まえながら、福祉サービスの充実や交流の場づくり、就労の場の確保等に取り組む必要があります。
- ・女性の社会進出などの時代背景を踏まえ、児童福祉サービスの充実に努める必要があります。

す。

(2) 住民意向調査から抽出された課題

1) 柳川市農村振興基本計画に係るアンケート調査

○生活基盤

- ・市民生活の質の向上において、下水道整備の推進が強く求められています。特に、掘割の水質保全にもつながることから、計画的な整備が求められています。

○福祉

- ・高齢者や障害者等への配慮が不足しているとの指摘があり、福祉施策の充実が求められています。
- ・福祉施策の具体的な内容として、公共施設のバリアフリー化や福祉・医療施設の整備等ハード面の充実があげられています。

○産業

- ・本市は、「観光」と「農業・漁業」が基幹産業として評価され、これらの振興を図ることが求められています。
- ・農業・漁業においては、担い手不足等が生じ、危機感を感じている市民も少なくありません。

○コミュニティ

- ・本市のコミュニティに対する市民意識は、近所の結びつきやそれを支える施設への評価が高いことが伺えます。
- ・少子高齢化が進む中で、世代間交流などが求められています。

2) ワークショップ等

○文化

- ・花火大会等の地域イベントは、地域の誇りでもあり、さらなる活性化等に取り組む必要があります。

○生活基盤

- ・幅員の狭い道路の改良や通学路における歩道の整備等が求められています。
- ・掘割の水質浄化のための下水道整備が求められています。

○防災

- ・防火用水として利用される掘割の水量確保が必要となっています。
- ・海岸沿いの防波堤整備が求められています。

(3) 関連上位計画との整合を図る上での課題

1) 新市建設計画

○産業振興

- ・地域特性を踏まえた、多様な産業振興に努める必要があります。
- ・新たな産業の創出や地場産業の活性化、雇用の場の確保に向けた企業誘致などに努める必要があります。
- ・点在する観光資源のネットワーク化を図り、「見る」観光から「触れる」「感じる」観光への転換や滞在型の観光振興に努める必要があります。

○都市基盤整備

- ・道路ネットワークの計画的な整備に努めるとともに、安全・安心できる交通環境の充実に必要です。
- ・高齢社会に対応した公共交通機関のあり方、公共交通機関の利便性向上を検討し、関係機関に提案する必要があります。
- ・適正な土地利用の推進、公園の適正な配置、民間活力の導入を含めた住宅整備の推進など住環境の向上に努める必要があります。
- ・地域情報基盤の整備、多様な分野における情報活用に取り組むことが必要です。

○生活環境対策

- ・下水道整備等の排水対策に取り組むことが必要です。
- ・環境に対する市民意識の高揚によるゴミの減量化や再資源化の推進し、自然環境に負荷を与えない循環型社会を形成していくことが必要です。

○保健・福祉・医療対策

- ・高齢者の社会参加や地域で見守るシステムの構築など総合的な長寿社会対策の推進が必要です。
- ・子どもたちの健全育成に向け、児童福祉の充実に努めることが必要です。
- ・障害者（児）が安心して暮らせる社会の実現が必要です。
- ・保健・医療・福祉の連携を図り、住民の生涯に渡った健康の維持に取り組む体制を構築することが必要です。

○教育・文化・スポーツ振興

- ・健全な社会の形成に向けた心の教育を進めることが必要です。
- ・学校、地域、家庭、行政が一体となった青少年の健全育成が必要です。
- ・生涯学習社会の実現に向け、市民の自主的な活動の支援に取り組むことが必要です。
- ・歴史や祭りなどの伝統行事の継承・活用、住民の主体的な文化・芸術活動の支援に取り組むことが必要です。
- ・健やかな心と体を育むために、市民がスポーツ・レクリエーション活動を行えるのに十分

な条件整備に努める必要があります。

- ・市民一人ひとりが尊重される社会の形成が必要です。

○住民参画推進・行財政

- ・行政と住民の協働体制の確立に向け、コミュニティの充実強化や企画立案の段階から住民が参加する体制づくりなどが必要です。
- ・多様化、高度化する住民ニーズに対応した自治体運営の見直しや組織機構改革などが必要です。

2) 掘割を生かしたまちづくり事業計画

○生活基盤整備

- ・掘割の水質改善のために、公共下水道の整備をはじめとした汚水流入抑制に取り組む必要があります。
- ・地区の特性に応じた掘割の整備及び水利施設の整備、維持管理体制の確立に取り組む必要があります。
- ・掘割の水辺環境の維持・保全に取り組む必要があります。

○教育

- ・環境教育の場としての掘割の整備に取り組む必要があります。

3) 田園環境整備マスタープラン

○生活基盤整備等

- ・ゴミの不法投棄等をなくすために、環境に対する住民意識の高揚に取り組むことが必要です。
- ・掘割の豊かな水辺環境を活用した景観形成に努める必要があります。

(4) 社会環境に関する重点課題

○少子高齢化の進行を踏まえた定住人口の維持・拡大

全国的な人口減少、少子高齢化の進行がみられる中、本市においても同様な傾向が見られています。そのため、若者の定住に資する雇用の場の創出や魅力ある住環境の整備、高齢者が生活しやすい住環境の改善等に取り組む必要があります。

また、本市は、新たな市としての歩みを始めたばかりであり、既存のコミュニティを基本としながら、相互扶助の意識等の高揚を図り、活力のある地域づくりに取り組む必要があります。

○都市化の進行を踏まえた計画的な生活環境整備

本市は、西鉄天神大牟田線を有するとともに、有明海沿岸道路をはじめとした地域高規格道路の開通を控え、周辺大都市への高いアクセス性の向上が期待されています。そのため、居住地としてのポテンシャルも向上するため、新たな流入人口等の確保をめざす必要があります。

そのような中、市街地周辺では、急速に宅地化が進み、スプロール化や交通渋滞、コミュニティ等の急激な変容が見受けられています。

これらの状況を踏まえ、計画的な生活環境整備に取り組み、快適な生活環境の形成に努める必要があります。

○豊かな地域資源を活用した交流人口の拡大

本市は、市内を張り巡る掘割をはじめ、城下町の面影を残す街並みや数多くの史跡や文化資源等、多様な地域資源に恵まれ、多くの観光客を集めています。しかしながら、本市を訪れる観光客の形態は、主に通過・立ち寄り型であるため、宿泊客数の伸び悩みや観光に関わる消費規模が小さい等の課題も見受けられます。

また、本市には、どろつくどんや川祭り、ほんげんきょうなど伝統行事や郷土芸能なども数多く受け継がれており、今後も、後継者の育成等に取り組み、継承・保護に努める必要があります。

今後も、個性と魅力ある観光地づくりに努め、地域の特色を生かした観光資源の発掘や保全、整備を図るとともに、様々な産業と連携を図りながら、多様化する観光ニーズに対応した観光振興に取り組む必要があります。

３．農業生産環境に関する課題

（１）文献調査から抽出された課題

○農業就業人口

- ・農家数の減少に歯止めをかけるため、新規就農者の確保等に努める必要があります。
- ・女性農業者や高齢農業者の割合が増加する中、多様な地域農業の担い手としての認識のもとにそれらへの支援策を充実させる必要があります。

○農家戸数

- ・農家戸数の減少が続く中、認定農業者等の中核的農業者（農家）への農地の集積を促すとともに、農業生産組織等の育成・支援に努める必要があります。

○農業生産

- ・消費者ニーズを踏まえ、地域特性に応じた収益性の高い作目の導入等に取り組む必要があります。
- ・生産の効率化を図る条件整備等に取り組む必要があります。

○経営耕地

- ・経営耕地面積が減少する中、認定農業者等の中核的農業者（農家）への農地の集積を促す必要があります。
- ・耕作放棄地の防止に努める必要があります。

○認定農業者・農業生産法人

- ・認定農業者の育成・支援に努め、これらが地域農業の中核を担う構造を確立する必要があります。
- ・生産組織の育成・支援に努め、体制の整ったものについては農業生産法人化を促す必要があります。

○農作業の受委託

- ・農作業の受委託を促し、効率的・安定した農業経営に取り組む必要があります。
- ・作業受託に留まらず、多様な活動を行う組織として生産組織を育成していく必要があります。

○農業生産基盤

- ・排水不良田の排水対策に取り組むことが必要です。
- ・効率的な農業生産に向け、更なる農業基盤整備に取り組む必要があります。

○環境との調和

- ・農業用排水路としての役割を持つ掘割の適正な維持管理に努める必要があります。

○「食」の安全

- ・消費者ニーズを的確に捉えて、安全・安心な農産物を生産する農業を展開する必要があります。

○農業及び農村の振興・整備のための推進体制

- ・柳川市農業振興地域整備促進協議会や柳川市営農推進会議を中心に、農業・農村の振興・整備に取り組む必要があります。

(2) 住民意向調査から抽出された課題

1) 柳川市農村振興基本計画に係るアンケート調査

○担い手に関して

- ・農業の担い手不足の深刻化が進んでおり、農作業受委託組織(農業法人・生産組合)や農業機械共同利用組織など、地域が一体となって農地を守る仕組みづくりが求められています。
- ・担い手不足等を起因として、耕作放棄地の増加が進んでいることから、早急な対策が求められています。

○生産・営農に関して

- ・現在の農業では、生産コストが高く収益に結びつかないとの問題点があり、生産コストの低減を図る仕組みづくりが求められています。
- ・農産物直販施設などの、農家所得の向上につながる仕組みづくりが求められています。

○農業生産基盤整備に関して

- ・農業基盤整備として「用水路の整備」や「排水施設の整備」など、掘割に関連する整備要望が高くなっています。掘割は、農業用水利施設であるとともに、市民の生活に密着した施設として、自然や景観に配慮した整備が求められています。

○都市と農村の交流に関して

- ・都市と農村の交流については、環境が整えばという条件つきではあるものの、多くの期待があげられています。
- ・都市と農村の交流の方法は、「農産物直売所を活用した交流」など、所得の向上につながる仕組みづくりが求められています。

2) ワークショップ等

○農業基盤整備

- ・排水が悪い地区(両開地区)があり、早急な対応が必要となっています。
- ・農地への進入路が不足しており、効率的な営農のための整備が必要となっています。
- ・農業生産基盤に関して、維持管理に取り組みやすい条件整備(ポンプの改修や堰のハンドルの付け替え等)が求められています。
- ・農業用排水である掘割の改善要望が数多くあげられています。

(3) 関連上位計画との整合を図る上での課題

1) 新市建設計画

- ・優良農地の確保や農地の集積、農業生産基盤の整備に取り組む必要があります。
- ・地域ブランドの確立や付加価値の高い農産物生産に取り組む必要があります。
- ・地産地消の推進や観光客を対象とした直販所の充実などに取り組む必要があります。

2) 地域農業マスタープラン

○経営・生産の総合的な振興

- ・施設園芸を中心に、高収益の作目、作型の導入、産地化の形成が必要です。
- ・労働力提供や農地の貸借等を進め、地域複合の農業発展を図る必要があります。

○効率的かつ安定的な農業経営の育成・確保

- ・農業を主業とする農業者が、他産業従事者並の生涯所得に相当する年間農業所得・年間労働時間の水準の実現をめざす必要があります。
- ・効率的な生産体制を形成する上で重要な役割を担う生産組織や農業生産法人等の育成・支援に努める必要があります。

○多様な担い手の育成

- ・効率的かつ安定的な農業経営体の育成が必要です。

○女性農業者の育成・参画推進

- ・女性農業者の育成、女性農業者が活躍できる条件整備を図ることが必要です。

○高齢者対策推進

- ・高齢者が農業生産や地域活動の一翼を担い、その能力を積極的に活用し、生きがいをもって過ごしていくための条件整備を図ることが必要です。

○新規就農者対策推進

- ・新規学卒者・中高齢者・Uターン者等の中で就農を希望する者に対して、情報提供や相談体制の強化、技術経営研修の充実を図る必要があります。

○担い手への農用地の利用集積

- ・認定農業者等の中核的農業者への農用地の利用集積を進める必要があります。

○生産・流通改善

- ・意欲ある担い手に農地の利用集積を図ることが必要です。
- ・ほ場整備や農道、用排水路の整備、乾田化対策等に取り組み、生産性の高い土地を更に創出する必要があります。
- ・有機農業等、環境負荷の軽減を図る農業展開に取り組む必要があります。

3) 田園環境整備マスタープラン

○経営・生産

- ・高収益性の作目、作型を担い手農家を中心として導入していく必要があります。
- ・労働力提供や農地の貸借等を推進していく必要があります。
- ・適正な土地利用の推進に努める必要があります。
- ・優良農地の保全に努め、将来の地域農業を担う担い手の育成に努める必要があります。

(4) 農業生産環境に関する重点課題

○地域農業の担い手の確保・育成

本市の農業を担う、認定農業者や集落営農組織、新規就農者の確保・育成は急務の課題となっています。このような中核的な担い手の確保・育成とあわせて、効率的な農業経営を行うことができる条件整備に努める必要があります。

また、今後ますます増加する高齢農業者や女性農業者が、やりがいを持って取り組める条件整備等に取り組む必要があります。

○収益性の高い農業の確立

米政策改革大綱等の国の動向を踏まえると、今後も、施設園芸における高収益作物の導入や集約的経営の展開、地域ブランドの確立等に取り組む必要があります。

また、本市は様々な地域資源に恵まれ、交流に関するポテンシャルが非常に高いこともあり、農業と他産業との融合・連携により、農業を基本とした複合的な産業振興に取り組む必要があります。

さらに、消費者の求める「安全・安心」な農産物生産など、消費者ニーズを的確にとらえるとともに、多様な流通ルートの確立を図り、安定して収益性の高い農業展開を図る必要があります。

○安定した農業基盤の確立

本市の農業基盤整備は、水田におけるほ場整備事業を中心に整備が進められ、一定の成果をあげてきました。

今後も、周辺土地利用との整合を図りながら、農業振興地域整備計画の見直しを含め、農業

生産基盤整備や農地の保全・集約化等に取り組む必要があります。

また、農業従事者の減少や高齢化が進む中、耕作放棄地等の更なる増加が予想され、農業・農村の持つ多面的機能の維持・発揮を踏まえた総合的な対策が必要です。